

森に行ったり……



〔規範意識〕

ルールを決めてゲームを楽しむ

勝ち負けがあるゲーム、ルールを決めて行うゲームで、負けても泣かないこと、ルールを守ることの大切さを学ばせる。大人も真剣になれるトランプやダイヤモンドゲーム、オセロゲームなどがいい。



小学校入学前、夏の体験学習の

〔運動〕

家に閉じこもらず、体を動かす

水遊びやプールのほか、ボール遊びも効果的。ドッジボールくらいの大きさの柔らかいボールを使って、親子でキャッチボールしたり、「あんたがたどこさ」のように歌に合わせてドリブルしたりするのもいい。脳と手足の連動が良くなり、集中力が高まる。



幼児期は、具体的にどうやって子どもの力を伸ばせばいいのだろう。

夏休みだからこそ始めやすい「体験学習」の方法を聞いた。

〔あいさつ〕

親があいさつする姿勢を見せる

起きたら「おはよう」を自分から言う約束をしよう。家族間はもちろん、近隣の人へのあいさつは、まず親が手本を見せる。外出先で人に何か教えてもらったときの「ありがとうございます」のような、マナーとしてのあいさつも、まず親がお手本になろう。



そこで矢崎さんのお勧めは、親子でラジオ体操をすること。「お手本のとおりにやろうとするから集中力と模倣する力が付きます。これを毎日続けることで、目と手・足の連動がうまくできるようになるのです」。同時にプールや水遊びなどの外遊びも心がけたい。「外遊びなら全身を思いきり動かせます。ラジオ体操も外遊びも、続けることで運動神経が鍛えられます。夏休みを機に親子で始めてほしいですね」。

矢崎さんが気になるのは、「最近手先が不器用な子が多い」ということ。「折り紙で鶴を折る」といった高度なことではなく、「テキストの紙をめくる」「筆箱からえんぴつを取り出す」などの簡単な動作がとて遅いというのだ。「目や耳に入った情報を、指や手に伝えるという連係ができていない。つまり運動不足なのです」。

また、毎日約束したお手伝いをさせることは、子どもの心の成長を促し、自立につながる。自分が役に立っているという感覚が責任感を育てるのだ。普段より時間がある夏休みは、子どもにもお手伝いを習慣付ける絶好の機会といえる。

せの時間にも余裕があるはずだ。毎晩一冊でもいいから、子どもの心を育てるつもりで、ゆっくり気持ちいいように読んでみたい。